愛知陸協広報

創刊号

18年 1 月 1 日発行

愛知陸上競技協会
〒460 - 0012　名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F
電　話（052）249－4363　　ファックス（052）249－4366

広報誌創刊への期待

愛知陸上競技協会会長　梅村　清弘

愛知陸上競技協会創立70周年を機に、協会の諸活動を紹介する広報誌が発刊されることになり、誠に喜ばしく思っております。

70周年記念誌では、協会内のそれぞれのリーダーにお集まり願って、競技会運営や選手強化策など様々な問題点と対策、今後の方向性等を話し合い、さらなる発展のための指針とすることができました。広報誌の発刊はその延長線上に位置する事業でもあり、会員相互が情報を共有する「広場」としての役割を果たすものと、期待するところ大であります。

これまで広報誌を持たなかったこと自体、情報化の時代にあって、立ち遅れを否めない感があります。すでにインターネット上にホームページを有する協会も数多く見受けられるからです。しかし、愛知陸協のように大きな組織の広報誌発刊は、編集・制作の手間、経費の捻出など、それだけで大変な事業と言えるでしょう。編集委員会のみなさまのご苦労に心から敬意を表します。

記録に挑む競技者が、ライバルの記録に刺激を受け、面白く、かつ有益な内容を発掘して下さい。そのためには、より多くの会員の参画が必要です。力を合わせ、みんなが集うもう一つのメーンスタジアムとしての広報誌を制作していきましょう。

次号の発刊が待ち遠しくなるまでに育っていくことを念じつつ、創刊号のご挨拶といたします。

広報発刊に当たって

理事長　國分　一郎

東京陸協からは、A4版数頁のものが、年3〜4回発行され、5部程送られて来ております。京都陸協からは、B5版ですが、やはり数頁のものが、1ヵ月に1回発行され、前会長高橋公一氏宛に一部贈呈という形で送られて来ています。隣の三重陸協からは、手刷の2頁のものが、やはり2ヵ月に1回程度送られて来ています。

私は陸協の会員の方々や、陸協関係者の方々、各大会に協力いただいている方々に愛知陸協のことをよく知っていただくということで、広報誌の発行が必要だと感じていました。昨年度の都道府県対抗男子駅伝では、三田裕介君（現豊川工業高）が、ジュニア中学の部の最優秀選手に選ばれましたが、このことは協会の多くの方々に『こんな優秀な競技者が育っている』ということで、知ってほしいことでした。今年岐阜で開催された全日本中学陸上競技選手権大会で2種目優勝した鈴木亜由子さん（豊城中）のことや、今年岡山国体で103.33点獲得して、堂々第3位になったこと等は多くの関係者に知ってほしいことの1つです。

そこで今春、専門委員会の中に『年誌資料・広報委員会』『女性委員会』をつくることとし、理事会・評議員会で提案し承認され、歩みだすことになりました。委員会の頭に『年誌資料』と入れたのは、協会創立70周年記念誌を編集するにあたり、60周年記念誌の編集を中心的にやって下さった岡田武彦氏から「60周年記念誌を編集するにあたって資料集めに苦労した。70周年記念誌を発行するためには、今から資料集めをしていく必要があるとの提案をした。それなのに10年間何も手を打って来なかったので、又資料集めの苦労をしなければならない」ということを聞いたからです。従いまして、この委員会は10年後の80周年誌発行に向けた資料集めも兼ねて行なってほしいと思います。

委員長には西垣完彦氏のことが頭に浮びましたので、引き受けてくれるよう依頼しました。そして理事会・評議員会に提案しました。理事会では、様々の意見が出ましたが、承認されました。委員を選ぶに当たっては、どの委員会のことも記事にすることから、1名の方を各委員会から推薦していただくことといたしました。各支部のことも記事にするようになれば、各支部からも1名の委員を入れた方が良いのかも知れません。

また配付の方法につきましても、登録団体の代表の方に送付しますと、代表の方は知っておられるが他の方々は知られないこともあります。個人については、年間いくらかの購読料・送付料をいただいて、送付するのも1つの方法かなと思います。それらは、この委員会の中で検討して行ってほしいと思っています。

前述のような経過によりまして、第1号発行に漕ぎ着けました。うれしいかぎりであります。委員の方々に敬意と感謝を申し上げ、筆を置きます。

専門委員会報告

総務委員会

総務委員会の業務の一つに、登録・登記がある。3月より受付けが始まり、4月から5月がピークとなる。総務委員会では、各支部で下記のように担当者を決めて手続き・受付けを行なっている。

各支部担当者が、月毎ぐらいでまとめて、陸協事務局へ送付し、それらを整理し日本陸連へ報告している。これらの仕事は國分理事長及び脇田氏が行なっている。11月25日現在での登録・登記は下記の通りである。年々、中学生の数が増加している。

登録・登記担当者

支　部	一般・個人	高　校
名古屋	水野　隆夫	（南）石川　重弥 （北）新美　準人 （知）山村　晃泰
尾　張	松井　祐二	吉田　智弘
西三河	柴田　和秀	加藤　高行
東三河	山本　三郎	市川　工
全県（大学・中学）	國分　一郎	脇田　千鶴

会　員　数

	男　子	女　子	計
一般登録	2084	342	2426
一般登記	58	5	63
高校生	3317	1916	5233
中学生	2245	1779	4024
計	7704	4042	11,746

登録・登記以外に総務委員会では、評議員会、常務理事会、理事会等、諸会議の案内発送及び会場の手配、準備を行なっている。これらを中心に行なっているのが、國分理事長、竹内信雄氏、脇田千鶴氏等である。

（稲垣　裕）

競技・情報処理委員会

今年度のトラックシーズンも終了し、ロードレース、駅伝大会の季節に変わっています。

競技・情報処理委員会の任務は競技会の計画立案、要項等の作成、プログラム編成等の準備と、競技会のコンピュータの活用による情報処理に関することを担当しています。

競技会開催のための準備は、競技場の確保から始まります。2006年度の日程も全国の大会日程、要項によって決めていきます。特に、瑞穂公園陸上競技場はプロサッカーＪ1のグランパスエイトの会場としても使用されます。12月上旬に利用調整会議が開かれ、会場の確保が可能になります。

大会要項は、その競技の性格等により作成していきます。期日、場所、種目、参加資格、参加料、申込方法・締切日等必要事項によりできあがります。

プログラム編成会議は申込みを整理し、種目別の参加人数を把握し、タイムテーブルを決定し、種目ごとに各組の編成を競技規則に従って組み分けし、レーン・試技順を決定していきます。競技注意事項もこの時に確認、大会の要項等により競技規則に補足する事項を加えます。

印刷原稿は、コンピュータによる日本陸連公認システムで作成する場合と、印刷業者が打ち込む場合があります。表紙と競技役員を加えてプログラムは完成しますが、大会前日までにできあがります。

最近の競技会運営では、瑞穂公園陸上競技場を中心にして、コンピュータを活用し、写真判定、電光掲示盤、光波測定・マグサインを使用した競技会運営によって正確で、記録発表の迅速な運営が行われ、判定について問題もほとんどなくスムースな大会になっています。

今後は、申込方法の改善、参加料の送金方法、記録の掲示・整理等でIT化を進め、効率化と正確さを高めていくことが課題です。ご協力をお願いします。

（外山　幸男）

審判委員会

⑴　各大会審判委嘱事務会議（年間30回）

大会規模に基づいて、審判出欠調査・参加校の顧問名を参考に、審判・補助員編成を行なっている。委員のメンバーは、それぞれの本務を終えて、6時半から事務所に集まり、遅くまで委嘱作業を行なっている。現在では、宛名書きの代わりにパソコンからタックシールを作成して能率化を図っている。

⑵　審判伝達講習会（尾張・西三・東三会場1回、名古屋会場3回、延べ390名参加）

3月下旬～4月に行なう。ルール修改正・競技運営上の問題点等を中心に審判員に理解してもらう機会になっている。

⑶　B級審判資格取得講習会（2回実施）

5月中に行ない、講義を中心に受講後テストを実施している。東海学連学生対象、愛知陸協の一般の方対象と区分し2回開催している。その後競技会で実習した後4月1日付けで、資格を取得してもらっている。　（学生150名、一般の方40名予定）

⑷　競歩審判講習会（4回）

各支部より推薦された審判員の方が、強化委員会競歩部の協力で、駅伝強化競技会において選手の動きを実際に見ながら審判実技を実習している。年間を通して研修に参加した審判員には、修了証を発行した（12／3）。

講　師　　浜島　聖治　若松　良一　岩瀬　一
　　斉藤　喜夫
研修者（名）江藤　照雄　今　俊人　田中　輝彦
　　飯田日出男　平川　貴之　稲垣　裕
　　（尾）石川　昇一　寺澤　整爾　森　敏行
　　對木　秀之　内藤　義光　森本　治郎
　　青山　充資
　　（西）国本　林　伊與田昌弘　米田　博文
　　清水　文雄
　　（東）中田　尚弘　夏目　浩孝

⑸　各大会運営要領作成会議（15回）

名古屋ハーフマラソン・名岐駅伝・犬山ハーフマラソン・名古屋国際女子マラソン等

《2005年4月1日「公認審判員」昇格者》

Ｓ級　4名

伊藤　宗七（名古屋）　国本　林（西三）
井上　和孝（尾張）　近藤　弘（尾張）

Ａ級　8名

櫻井　勘、舟木　香織、守屋　牧子
飯田日出男（名古屋）

明星　光信、林　　一哉、手嶋　文治（西三）
服部俊之（尾張）
Ｂ級　45名

（青木　　実）

記録委員会

各競技会において競技終了後、すべての記録を整理し、リザルトの作成を行なっている。その後瑞穂では、報道関係6社にリザルトをＦＡＸし終了となる。リザルトを注文、販売する競技会では、より多くのリザルトを作成しなければならない。競技会が終了し、3週間以内に日本陸連その他にプログラム及びリザルトを送付し報告している。この段階で一つの競技会が無事終了する。名古屋、尾張、西三、東三各支部の主催競技会及び県陸協が主催する全ての競技会の結果を報告しなければならないので、岡田武彦、西川洋、稲垣裕の3人で手分けして手続きをしている。

また、各競技会の記録結果を基に県のランキング表を作成しており、上記の岡田・西川・稲垣がそれぞれ担当している。県内外を問わず競技会の記録に注意を払わなければならないので、大変な業務である。

（稲垣　裕）

施設・用器具委員会

⑴定例委員会の立上げ
①第1回委員会（4月28日）
検定部会、電子精密機器部会、用器具部会と3部会で発足し研修を進める。
②第2回委員会（7月2日）
各陸上競技場の情報交換等
③第3回委員会（11月23日）
トラックシーズン終えての問題点検討
④第4回委員会（18年3月31日）
ロードシーズン終えての問題点検討
⑵検定関係（2005年度検定分）
①中京女子大学陸上競技場（3月31日）
新設5種（青木・桑原）
②安城陸上競技場（12月9日～10日）
継続2種（久保田・青木・桑原）
③豊橋市営陸上競技場（3月4日～5日）
継続3種（青木・平川）予定
④半田運動公園・陸上競技場（18年3月下旬）
継続2種（青木・桑原・未定）予定

（青木　実）

強化委員会

4月9日第1回強化委員会
国体選手選考日程の確認、国体選手合宿の計画、強化委員会組織の確認をした。
7月17日第2回強化委員会
成年の部の国体選手選考、国体選手合宿の確認、
8月8日第3回強化委員会
国体選手選考。
8月18日～20日
国体選手一次合宿を中津川において実施。
8月25日～28日に津田体育専門学校と共催でトレーナー部会夏期勉強合宿を日間賀島において実施。
8月24日～27日に中長距離国体、都道府県対抗駅伝候補選手夏期強化合宿を富士見高原において実施。
9月18／19日国体選手二次合宿を瑞穂競技場において実施。
9月19日陸上競技教室の打ち合わせ。
10月15／16日国体選手三次合宿を知多市陸上競技場において実施。

（水野　久）

女性委員会

女性委員会は、本年5月に発足した新しい委員会である。梅村会長が、会長職に就任された際に「愛知陸協は女性が少なすぎるので育成して欲しい」との指摘をされた。これをうけて國分理事長が女性委員会をつくるという提案をされ発足に至った。そのメンバーは各支部より推薦され、バランスの良い年齢構成になった。活動の目的は、女性の参加者を増加し育成することである。特にわかしゃち国体以降減り続けていた女性審判員を、いかに増加させていくかが大きな課題である。

女性委員会については、全国的にみても半数近くの都道府県で活動が行なわれている。その目的は、いずれも女性の参加者を増加し育成するものである。200名を超える審判編成で「全国レディース陸上」を開催した熊本陸協と東京陸協を除いて、その現状は愛知とほぼ同じである。多くの都道府県で、どのような活動をしていくのかを模索している。

愛知陸協女性委員会の現在までの活動は、次のとおりである。会議の開催（2回）、レディース陸上大会の運営、女性審判員に対するアンケート調査の実施、全国女性委員会議への出席。

今後の活動については、第3回会議の開催、名古屋国際女子マラソン審判への積極的な参加などを予定している。

最後に、今年、豊橋陸上クラブの佐藤悦子さんが鈴木亜由子選手を育て、数々の大会ですばらしい成績を残した。このような優れた選手や指導者がでてきたことは、大きな励みになった。このような女性の活躍をバックアップしていきたい。また、女性の立場、女性の感性を生かして陸協の運営に協力し、陸上競技の発展に努めていきたい。

（脇田　千鶴）

年誌資料・広報委員会

本委員会は、本年5月に専門委員会の一つとして女性委員会とともに新しく発足した委員会である。

その経緯及び目的等については、國分理事長の「広報発刊に当たって」に詳述されているので、ここでは本委員会の目的の一つである「広報誌」第1号(創刊号）の取り組みを中心に記す。

委員会開催に先立って、8月上旬に広報誌発行等の委員会の活動内容について委員の方々にアンケートを行ない、その結果を参考にして下記のように会議を開催した。

第1回会議：平成17年9月30日（金)。「広報誌」について協議し、①広報誌の名称：「愛知陸協広報」。②発行回数：17年度は2回、次年度からは年4回の発行を目指す。③第1号（創刊号）の内容等を決定。

上記の委員会の結果に基づいて、第1号の発行及び編集内容の方針を10月12日の常務理事会に諮り了承を得たので、10月15日付けで22名の執筆者に、延べ34編の原稿を、11月14日（月）締切で依頼した。

なお、印刷会社は一誠社とした。

（西垣　完彦）

四支部の活動状況

名古屋支部

―新支部長竹内信雄氏・平成17年度スタート―

理論派の前支部長橋本卓氏は、奇しくも名古屋女子国際マラソン（H17.3.13）当日昼に他界された。氏は、早くから小中学生の

陸上教室・高校生の全国レベルの大会への出場・支部独自の表彰制度の確立・指導者の交流と審判員の自覚等々、その卓越した持論を提唱され名古屋支部発展に尽力されてきた。今それらの実践が漸く実り、愛知陸協を支える母体として揺るぎない支部として発展している。

17年度のトラックシーズンは10月末の支部選手権を以て無事終了した。競技者・指導者・審判員の絶大な努力により、各種大会で好成績を収め、愛知の陸上の発展に貢献した。関係各位に感謝すると共に今後の精進に期待する。

後半の長距離駅伝シーズンも、トラックシーズンに負けない好成績を期待し、選手諸君と指導者の奮闘を心から応援している。

1　17年度名古屋支部組織

支 部 長	竹内　信雄	理 事 長	坂井田酵三
副理事長	矢野　通則	安井　繁男	
会計庶務	桑原　義貴	秘　　書	鴻村　一寛
監　　事	若松　良一	※理　事（25名）	
総　　務	（長）水野　隆夫	（副）　勝見・秋田・鴻村	
競　　技	（長）安田　純久	（副）　谷　・大矢・植田	
審　　判	（長）榊原　　茂	（副）　小森・桑原・水野	
記録・情報	（長）西川　　洋	（副）　村瀬・新見・新美	
施設・用器具	（長）桑原　義貴	（副）　鈴木・名倉・三輪	
選手強化	（長）鈴木　　潔	（副）　可知・榊原	
普　　及	（長）木全　和代	（副）　小川・水野・榊原	

①桑原氏は、H17.7より東海陸協事務局長。
②名古屋市陸協会長は、國分一郎氏です。

2　名古屋支部主催事業（主なもの）

(1)支部選手権大会　　10／29.30
(2)支部陸上競技会（3回）　4／2.3、5／8、8／27
(3)県選手権支部予選会　　6／11.12
(4)中学通信支部予選会　　6／12.19
(5)支部中学新人戦　　9／18.23
(6)支部審判伝達講習会　'06／3／24.25 予定

（理事長・坂井田酵三）

尾張支部

本支部は、愛知県一宮総合運動場陸上競技場を主会場に活動している。

支部区域は行政と異なり、中小体連は尾北、一宮、稲沢、海部・津島支所で構成されているが、高体連には愛日地区の小牧、西春・新川・甚目寺（五条）が含まれ、一般もこれに準じており、組織的に稀に複雑である。

活動は競技会が主体で、支部関係を13回、高体連関係を7回、中小体連関係を6回行っている。具体的には尾張選手権大会をはじめ記録会（小・中・高・一般）、小学生リレー大会・競技会、中学新人大会、西尾張中学総体、尾張駅伝、その他各種県競技大会支部予選会、陸上競技教室等である。

同競技場の使用は主に小中高生であり、一般は年々少なくなっている。バブル経済が崩壊し、特に繊維主体の尾張地区の産業は経済不況の波をもろに受けた。それと共に企業の陸上競技部も撤退を余儀なくされ、実業団チームは少ない。今は小中学生の競技人口の増加を図り、底辺の拡大に努力している。

競技場は昭和44年に完成以来改善されているが、現在全天候型になっているのは、幅・三段跳と棒高跳の助走路のみ。備品は競技者待機用のテントもなく、雨ざらし・炎天下での競技を強いられ、雨が降ればトラック、フィールド共にぬかるみ、競技者に怪我人・病人が出ないか心配し、好記録など望むべくもなく空しい競技会を開催している現状である。

現在、競技場の早急な全面改装・整備を強く要望し、平成3年・7年に続き3度目の陳情活動をしている。これには中小体連・高体連をはじめ、関連のPTA連絡協議会、地域の方々からもご支援を頂いており力強く感じている。

なお、本支部加盟の優秀な選手（全国的大会に出場等）、および陸上競技の発展に寄与し、支部の運営並びに事業の遂行に貢献した者を表彰している。

（髙田　輝男）

西三河支部

平成の大合併により東三支部より稲武町が、又支部内で藤岡・小原・足助・旭・下山が豊田市に合併、住所表示等で戸惑いもありました。長い間行政区と支部区域が同一で便利でしたが、今後も新しい仲間を加えて、組織を強化したいと思います。

本支部内に6公認競技場がありますが、新設時は勿論、以後再検定、改装等関係者に多大のご苦労をかけています。この頃特に感じますのは半世紀にわたる人間関係です。思わない所で助けて頂いています。岡崎の青山氏・豊田の城戸氏・刈谷の今井氏等々、只々感謝です。

選手の事は別項で報告されると思いますが、本年の岡山国体での本支部の選手や、本支部出身の選手の活躍です。愛知の好成績に少なからず貢献できたとホッとしています。特に女子リレーは4人中3人が本支部です。

本支部における小中学生の教室・クラブの設立は、スタート時に小学校の部活に頼ったので、出遅れました。やっと岡崎と碧南でスタートしました。岡崎は県営グランドで月2回日曜日に、300名以上の参加です。碧南は豊田織機碧南工場のグランドで、クラブと教室に分け、クラブは選手育成を目指し毎週火木土、教室は陸上の普及目的に土曜日実施です。会員は合わせて60名くらい。これを機に、各地区で設立できるよう期待しています。

（鶴田　政之）

東三河支部

豊橋リレーカーニバルから始まった東三河地方の陸上競技大会は熱気にあふれていた。ここ十数年にわたって小中高校生の競技力向上が見られ誠にうれしい限りである。競技に対する指導者の熱意、競技力向上のための講習会開催、人的交流を図り、陸上競技を楽しむ環境作りが選手にやる気を起させた結果ではないかと思う。

特に小中学校を中心にした陸上教室の通年開催により、陸上をしよう!!選手になろうという子供達、少しでも健康にしたい親心と共に多くの選手が集まり、その中で優秀選手が出た。今年も陸上教室の中から全国小学校陸上大会、全日中陸上、ジュニアオリンピックに多数の選手が参加した。

もう一つの強化策としての中高校生を中心とした東三合宿は、単なる競技力の向上にとどまらず選手と指導者との交流がよりよい環境を作り上げ成果を上げている。選手を知ること、ひと言声をかけることが大切である。また渡辺正昭氏の指導理念、着実な成果が東三河地方の陸上競技に火をつけさせたことは確かである。

特に鈴木亜由子選手（豊城中2）は、愛知陸上競技選手権大会で、高校、一般選手を相手に完勝する走り。また全日中陸上競技選手権大会では、完璧なレース運びで、800m、1500mの2種目に優勝した。

豊橋市長、教育長を始め関係者一同大喜びし、今や鈴木亜由子選手は、小中学生の憧れの的となり、優秀選手を目指して力強い

練習に励むようになった。選手と指導者のよりよいコミュニケーションの中で、今日も明るい練習風景が見られるようになった。

「継続は力なり」 東三河の陸上のますますの発展を祈るこの頃である。

（牧田　功）

関係団体の活動状況

中部実業団（愛知）

中部実業団陸上競技連盟の登録関係は加盟団体数 150、登録人員 679 名である。本年度の大会関係では 5 月に岐阜メモリアルセンター長良川競技場で 126 チーム 431 名の参加を得て第 49 回中部実業団対抗陸上を開催。成績は総合の部でスズキ、トヨタ自動車、小島プレス、男子の部でトヨタ自動車、スズキ、小島プレス、がそれぞれ 1−3 位の順位であった。10 月には多治見市運動公園星ケ丘競技場で 280 名が参加し、第 6 回中部実業団選手権大会を実施した。8 月のヘルシンキ世界陸上に日本代表として出場した選手も 7 名参加し、大会を大いに盛り上げてくれた。また東日本連盟及び北陸連盟からの参加もあり、連盟間の交流にも大変役に立つ大会になった。更に地元の小中高生も多数参加し、盛況であった。

各種委員会の活動状況としては、強化委員会を 3 回（4・5・9 月）開催、移籍選手の資格審査及び駅伝関係の確認事項、更に合宿及び海外派遣の選手選考等を議題に実施した。小委員会（連盟の課題等に対する諮問機関）を 2 回（7・9 月）開催、特に本連盟は今年で 50 周年を迎えるので、その周年事業の企画立案や個別案件を討議した。また、4 月には第 1 回の理事会をセンチュリー豊田ビルで行ない、年間事業計画および年度予算、さらには連盟役員の議案について審議承認された。

これからの駅伝シーズンには愛知県所属チームが多数出場するのでご声援をお願いしたい。

（樋高　勇二）

高体連陸上競技部

今年度の加盟校・登記登録者数は 210 校・5525 名。これは昨年度の実績から見ると、登録者数では東京についで 2 番目です。この大所帯を部長の松本吉男先生（至学館高校校長）他、36 名の委員の先生方（氏名省略）全員が一致団結して大会運営に当たっています。また、大きな大会では、陸連方式の運営システムを使ってプログラム編成をする関係で、守山高の勝見雅宏先生、東郷高の宮本智先生にも特別にお世話になっています。さらに、高校駅伝関係では、26 年前から知多市での開催ということで、半田商高の稲垣裕先生や、地元の江藤照雄氏に多大なるご支援をいただいています。

特に、来年度は、東海高校総体と東海高校駅伝が愛知県で開催されます。愛知陸協の役員・審判の方々、各校の顧問の先生方、補助員にあたる高校生諸君に格別にお世話になると思いますが、何卒ご協力をお願いいたします。

なお、今年度の県高校新人大会より愛知県高体連のホームページに記録が掲載されるようになりました。来年度の県高校総体からは、スタートリストも掲載する予定です。ご活用ください。

（専門委員長　大島　修）

高体連定通制陸上競技部

県定通陸上部の活動は、県大会・全国大会・秋季大会が主である。6 月の県大会（全国大会選考会）において、各種目 3 位まで入賞し、参加標準記録を突破した選手が、8 月の全国大会に出場できる。大会は東京の国立競技場で毎年行われる。都道府県対抗で行われ、3 泊 4 日の日程、県大会ではライバルであったにもかかわらず選手団は愛知としてまとまり、国立競技場に愛知がんばれの熱い声援が聞かれた。成績は男女総合で最多の 19 回の優勝を誇るが、ここ 5 年間は選手の減少で優勝から遠ざかっている。しかし、常に上位入賞している。

県下の学校の課程は夜間定時制・昼間定時制・通信制で、練習できる時間帯は夜・昼・休日と様々であり、限られた時間、限られた施設の中で工夫しながら取り組んでいる。県大会・秋季大会への参加校は 10 数校、参加選手数 100 名程である。小規模ではあるが、一人でも多くの選手が国立競技場で競技し、感動を味わうことが出来るよう取り組んでいる。

（松橋　政人）

中小体連陸上競技部
〈中学校の部〉

本連盟は、愛知県内の中学校にある陸上競技部に在籍する選手が県大会以上の大会に参加する場合にとりまとめをしたり、選手がより良い環境で競技できるように努め、協力しています。

また、愛知陸協の協力の下、各支部で選手強化を目的とした種目別・合同練習なども実施しています。

本年度の行事は下記の通りです。

7 月 30 日	第 59 回中学校総合体育大会陸上競技大会（瑞穂公園陸上競技場）
8 月　7 日	第 27 回東海中学校総合体育大会陸上競技大会（岐阜長良川メモリアル競技場）
8 月 19 日〜22 日	第 32 回全日本中学校陸上競技選手権大会（岐阜長良川メモリアル競技場）
11 月 19 日	第 54 回県中学校駅伝大会（豊田市運動公園）
12 月 18 日	第 13 回全国中学校駅伝大会（千葉・昭和の森特設コース）

（秋田　明憲）

小学生友の会
—第 20 回小学生選手権大会を記念して次の一歩を—

小学生友の会発足の経緯　　およそ 20 年前、小学生の陸上競技会の性格が大きく変わりました。友の会を発足させ、県大会を開催することになったのです。

日清カップ全国小学生陸上競技交流大会の発足を機に、大きな変革をしたのです。

1984（昭和 59）年
　第 1 回東海小学生リレー競争大会開催　　2006 年で 23 回
　第 1 回愛知県小学生リレー競争大会開催　　2006 年で 23 回
1985（昭和 60）年
　第 1 回日清カップ全国小学生陸上競技交流大会開催　　2006 年で 22 回
1987（昭和 62）年
　愛知陸上競技協会　小学生友の会が発足
　第 1 回愛知県小学生陸上競技選手権大会開催　　2006 年で 20 回

それ以前は、教育委員会や学校体育連盟が主催する町村大会・郡大会・市大会であり、稀に、愛知陸上競技協会が招待する《招待リレー競技会》への出場機会がある程度でした。

小学生友の会　運営委員・指導者連絡会の発足　　2006 年 11 月に、第 20 回小学生陸上競技選手権大会の開催を機に、小学生友の会より一層の発展を期して開設を準備しています。

①　活動内容例　　ア　指導法の情報交換
　　イ　社会体育系団体の運営法の情報交換
②　発足検討会　　2006 年 3 月 12 日（名古屋国際女子マラソン大会終了後）

（村上　叡治）

愛知マスターズ陸上競技連盟

―― 心豊かな長寿社会の実現への貢献役マスターズ陸上――

愛知マスターズ陸上競技連盟が主催する活動として、愛知マスターズ陸上競技選手権大会と記録会を開催しました。

今年の選手権大会は5月22日に刈谷市で開催し、178人が参加しました。記録会はマスターズ会員に限らず競技ができる人であれば誰でも参加でき、刈谷市で4回開催し、延べ1,033人の参加者を得ています。

主催以外の活動としては全日本マスターズ駅伝大会及び全国スポーツ・レクリエーション祭のマスターズ陸上の部へ選手を派遣しました。

駅伝は4月17日に福井県鯖江市で開催され、男子13位、女子2位、エルダー（男子60歳以上・女子50歳以上）7位と頑張っており、10月1日から4日まで岩手県北上市で開催された全国スポレク祭についても6人9種目の優勝を果たしました。

このほか主な大会として6月に東海選手権大会が岐阜県多治見市で、また、8月には大阪市で全日本選手権大会が開催され、愛知県から多くの選手が参加しています。また、8月にスペインのサンセバスチャンで世界選手権が開催されました。

マスターズ陸上の大きな特徴として、全日本マスターズ駅伝と全国スポレク祭の出場者は選考されますが、それ以外の日本選手権でも世界選手権であろうと記録の優劣に関係なく参加料を払えば誰でも参加できることです。

誰でも楽しめま～す！

なお、今年は（社）日本マスターズ陸上競技連合創立25周年にあたり、野澤正治さん（西尾市）が連合から功労者表彰されました。

平成17年度　日本記録樹立者（愛知マスターズ会員分）

クラス	種目	記録	選手名	大会名	競技場名
SM35	1500m	4分02秒66	中野　哲也	春季知チャレンジディスタンスinエコパ	静岡スタジアム
M70	砲丸投	12m41cm	近藤　陽州	奈良マスターズ選手権	鴻ノ池
W40	400m	61秒26	碓井由起子	東海マスターズ選手権	多治見市星ケ台
W75	走高跳	96cm	長谷川政子	愛知マスターズ選手権	刈谷市運動公園

注：マスターズクラス説明　SM ……（40歳未満の男子）　M ……（男子）　W ……（女子）
（例）SM35 ……男子35才～39才の選手　W40 ……女子40才～45才の選手

都道府県対抗・全日本マスターズ駅伝の成績

4月17日　福井県鯖江市競技場付設コース

男子　13位　村瀬　裕之　近藤　健志　佐野　昭二　岩月　幹俊　中山　史信　下川　勝彦　1時間55分31秒
女子　2位　青戸　敦子　中山　淳子　加藤　順子　丹羽　照美　1時間06分04秒
エルダー　7位　前田眞由美　加藤　吉博　東　二三子　新田　順義　1時間11分38秒

（佐野　昭二）

愛知陸協OB会の活動状況

本会は、競技者・競技役員として長年愛知陸協の発展にご尽力・ご協力いただいた60歳以上の方々を対象に呼びかけ、相互の親睦友好を深め、協会と一体となって本県の陸上競技の発展に寄与することを目的に、平成11年の評議員総会の議を経て設立・発足した。

本会は、原則として、総会と年2回の懇親会・研修会を開催しているが、平成17年度4～10月の活動の概要は次のようである。

●17年7月16日（土）：17年度会員総会及び懇親会。49名出席
場所：瑞穂ラグビー場会議室。
議題：①平成16・17年度の事業報告・計画及び収支決算・予算案について
②役員改選
③新会員紹介
その後、次の方々に寿杯記念品を贈呈した。
米寿杯：佐橋　恒人氏　傘寿杯：柴田　三郎氏
喜寿杯：鈴木　正之氏　伊藤　宗七氏　高田　輝男氏　大竹　太氏

●17年9月8日（木）：OB会の集い。
大須演芸場で観劇～懇親会。

（村瀬　雄一郎）

特 別 寄 稿

2005年第10回世界陸上 ヘルシンキ大会の研修記録

愛知陸上競技協会理事　勝亦　紘一（中京大学）

2005年8月7日～16日の期間、日本陸上競技連盟は強化策の一環として、第10回ヘルシンキ世界陸上競技選手権大会へ、若手でしかも実績豊かな指導者を研修員として派遣することになった（名簿は省略）。私はその研修団のリーダーとして指名を受け、大役を担うことになった。

愛知陸協関係者は選手として110 mH の内藤真人選手（中京大中京高卒）、3000m障害の岩水嘉孝選手（豊川高校卒）、ハンマー投の室伏由佳選手（市邨高校卒）七種競技の中田有紀選手（中京大卒）リレーメンバーの鈴木亜弓選手（市邨高校卒）そして、コーチとして室伏重信氏、本田陽氏（共に中京大学）が参加した。日本のエース、アテネオリンピック、ハンマー投・金メダリストの室伏広治選手の欠場は非常に残念なことだった。

フィンランド（人口わずか500万人）の首都・ヘルシンキは北緯60度に位置する国際都市である。私たちの組織委員会より指

定されたホテルは市の郊外に位置し、部屋のカーテンを開けると白樺と松が林立し近くに湖が見える。テラスに出ると、日本の夏とはまるで違ったひんやりした空気が伝わり、高原の別荘にでもいるような快適さだった。

1952年のヘルシンキ・オリンピック、1983年の第１回世界陸上、そして今回新たな歴史を加える競技場の象徴は、メインゲートに建立されたフィンランドの英雄ヌルミ（史上最強の長距離ランナー）の銅像とシンボルタワーである。この地で今回参加の研修員は、どんな夢を育み膨らますのか、そびえ立つタワーを見上げながら研修成果を私は祈った。

研修員には日本陸連によりIDカードが支給された。IDカードは競技場の一部を除いた全ての観客席に出入りが可能で、私たちは自由に空席を見つけ心ゆくまで世界陸上を堪能することができた。IDカードは選手村への入村も可能で、公共交通機関は無料、しかも博物館や美術館へも割引料金で入場ができ、まさに賓客待遇だった。

競技場の座席は北欧の国に相応しい木造のベンチで、なんとなく心の温もりを感じた。世界選手権大会の主役は選手、脇役は観客。観客の多くを占めるフィンランド人の応援が大会を盛り上げた。観客が陸上競技の素晴らしさを満喫し、喜びをよく表現している。その方法は手拍子だったり、大歓声だったり、身びいきをよしとする地元選手への応援、そしてスタンドを埋めつくさんばかりのフィンランド国旗の勢いが他国選手の背中をも押している感があった。観客はかなり高額な入場料を払うが、大会運営はスポンサーの存在なくして考えられない時代に入ってきている。そのスポンサーの主翼を担っているのが、日本の様々な業種の企業であることにある種の誇りを感じた。

大会は日々の経過とともに「フィンランドらしさ」が伝わってきた。例えば、①パリ大会のような華やかさはないが、観衆に落ち着いてじっくり競技を見せたいとする本質的な点。②タイミングのよい音楽が心地よい点。③普段着の競技会、質素に環境を整えていた点。④審判や補助員が黒子に徹して目立たない、素朴に感じられた点。⑤各部署の係員の真剣味が伝わってきた点。⑥競技場内のベンチで完全に禁煙が守られていたこと、アルコール類の販売と飲料はエリアー内だけに限られていたこと、手洗いではお湯が出て手拭のロール・タオルが使いやすかった。⑦一番の感動は、悪天候にもかかわらず終日競技場にて観戦する地元の熱心なファンである。豪雨の中でも声援は途切れることなく選手を支えた人間の本質的な優しさに、私はスポーツ文化の水準の高さを感じた。

そうした豪雨で中断、スタート時間は遅れること25分、男子400mHの決勝。為末大選手は度胸の良いインターバルのスピード・アップで前半をリードし、後半は勝負師としてねばり、ゴールは捨て身のフィニッシュで銅メダルの獲得。私はとっさに「エドモントンより価値ある銅メダル、歴史に残る銅メダル」、と同時に「プロとして飯が食える選手」と感じた。このシーンは、本大会の日本チームのハイライトといっても過言でない。

大会の空き時間の有効活用は、「諸外国選手の練習観察」や「異文化体験」として貴重である。したがって一度揃って研修員は選手村にある練習場へ立ち寄った。国際色豊かな各国選手の練習風景を観察した。研修員の眼光鋭い眼差しが印象に残っている。また、大会スポンサーのミズノ社の招待を受けて、大会パートナー・ビレッジに招かれた。今日のメニュー「ギリシア料理」をご馳走になる。ある研修員は「赤ワインと料理が良く合った」、またある人は「白ワインが…」。帰りには手土産まで頂戴し、ミズノ社の本大会に寄せる意気込みを感じさせられた。誠にありがたく心より感謝申し上げた。

とにかく研修員は団の行事と各自の計画にしたがって、精力的に活動を展開していた。皆時差や疲労による体調の変化なぞ微塵も感じさせず、気力の充実ぶりは誠に豊かであった。海外研修の究極的な成果は「一人旅」によるところが大きい。自己を客観化できるうえに、自分自身の感性を磨く事ができる。言い換えれば、体験的に「国際感覚」が染み付いていくことが重要だと私は考えている。

夕刻競技の始まるまでの時間を利用して、私はミズノ社に敬意を表しつつ、競技場の隣のサッカー場で催されている「サブ・イベント」の会場を訪ねた。そこではミズノ陸上競技チャレンジ教室が開催されていた。ゲスト・コーチに短距離のＦ．フレデリックス、槍投のＪ．ゼレズニーが地元の子どもたちや同伴の大人たちを相手に、スピィーディーに走ることや槍投げの楽しさを実際に動きながら伝えていた（写真１）。

世界新記録で圧巻だったのは、ロシアの棒高跳選手イシンバエワが5m01を跳躍した瞬間であった。大観衆は惜しみない拍手を送り、しばし拍手は鳴りやまなかった。この日も男子同様、向風にしばしば助走を中断するような選手もあった。男子の棒高跳も助走路の風は一定せず厳しい条件であったが、戦う選手達の精神力の強さが技術を引き出していた。

もう一つは、女子槍投で優勝したキューバのＯ．メネンデスが71m70（１投目）の世界新記録をマークした。２位には自己記録を大幅に伸ばしたドイツのＣ．オーバーグホルが70m07のヨーロッパ新記録をマークした。非常にハイ・レベルの熱い戦いだった。

今大会のコンディションは、豪雨、寒風ありで悪い方に属するといっていいだろう。しかし、多くの選手が自己新や今シーズンの自己最高記録をマークしていた。

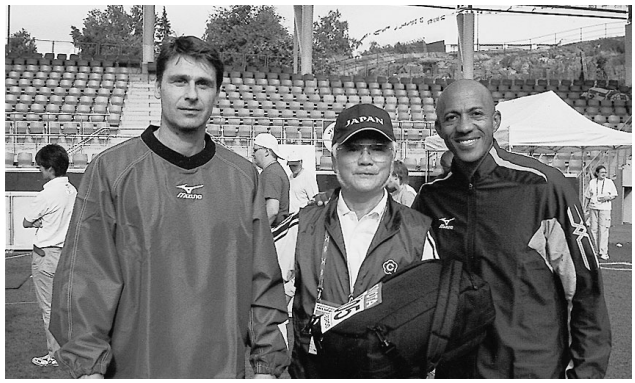

写真１　世界陸上の顔と私
左よりやり投のゼレズニー、私、短距離のフレデリックス

一方地元出身の選手（写真 2）は、いずれも日本選手権者であり国際試合の経験も多彩である。それだけに今回の成績は到底満足のいくものではないと推測している。2006年はアジア大会、2007年８月は大阪で世界選手権大会が開催される。皆、あと一歩で世界に肩を並べる事できるの才能を持っている逸材である。さらに一段と厳しい競技者生活と合理的な練習を積み上げてもらいたい。今後も私たちは夢と期待を込めて応援していきたい。

研修団へご支援していただきましたすべての皆様に感謝しつつ拙稿を閉じることにしたい。誠にありがとうございました。

写真２　鈴木亜弓選手のリレーを応援する
右側２番目より中田、室伏、内藤の各選手

'05（第28回）メルボルンマラソン使節団報告

愛知陸協では、犬山ハーフマラソンと姉妹提携しているメルボルンマラソンに、団長兼監督として村瀬雄一郎常務理事と山内貴司（愛三工業）・河合智子（自衛隊大津）両選手を派遣した。

関係者を含む6名の親善使節団は、10月5日、國分理事長はじめ、愛知陸協、犬山市、会社、新聞社らの関係者の見送りを受け、中部国際空港～成田経由で、翌6日、メルボルンに着く。空港では、毎年お世話になっているダグ・ボーン氏や通訳の中島さんらの温かい出迎えを受ける。昼食後、ダグ氏の案内でコースの下見をする。両選手はホテル着後、約1時間近くの練習を行う。7、8日は、朝6時30分より、ホテル前の湖周辺を約1時間近く汗を流す。両日とも練習後は市長への表敬訪問、葡萄酒製造工場の見学、ダグ氏宅訪問等のスケジュールをこなしながら、レースに備えて最後の調整を綿密に行う。

9日（日）大会当日、両選手は4時起床、6時45分スタート地点に到着。コースが海岸沿いのため、風が強く、気温9度、曇り空の下、8時号砲一発、約3200人の参加者とともに元気よく駆け出す。

山内選手は、6kmまで先頭集団3～4名でゆっくりしたペースで進む。15km地点まで強い向かい風に苦しめられたが、6km辺りで飛び出し、後続を2分離しての独走で、堂々の優勝を飾る（記録：1時間08分00秒）。

一方、河合選手は、13kmまでトップ争いをしたが、残念ながら準優勝（記録：1時間21分18秒）。

日本選手の大活躍は表彰式で話題になったが、かつての名マラソンランナーで、今なお、メルボルンの偉大な英雄として活躍しているド・キャステラ氏から両選手にトロフィーが渡されると会場から大きな拍手がわき起こった。

10月10日夕刻、シドニー空港を発つ。翌11日朝6時35分成田空港着。新幹線で11時26分名古屋駅に着き、國分理事長ら関係各位の出迎えを受ける。

メルボルンでの市民との友好親善と優勝・準優勝という素晴らしい成果を挙げられたことを報告し、解散した。

今回の派遣に際し、多大のご配慮を頂いた関係各位に深謝申し上げます。

表彰会場で　後列左より村瀬、ド・キャステラのお母さん、ド・キャステラ、山内選手、河合選手、前列、中島さん（通訳）

（親善使節団団長兼監督　村瀬　雄一郎）

競技会報告

堂々の天皇杯第3位、皇后杯第5位

―岡山国体出場全選手の成績と総括―

第60回国民体育大会「晴の国・岡山国体秋季大会」は、10月22日から岡山県陸上競技場（桃太郎スタジアム）で開催され、陸上競技は天皇杯・第3位、皇后杯・第5位の成績を納めました。

ここ数年、少年男女の成績が振るわず、総合での上位入賞を逃していただけに、今回の結果は関係の皆様からも賞賛いただける成果ではなかったでしょうか。

5日間を振り返ると1日目、初日の切りこみ隊長は少女B走幅跳の賀川でした。朝一番から始まった予選でいきなり自己記録を大幅に上回る大ジャンプで通過。決勝もトップと争う勢いでの4位入賞でした。これに続けと少女A100mの河原崎、少年Aハンマー投の橋本は夏のインターハイで充分な結果が残せずリベンジを誓っての戦いでしたが、みごと河原崎は自己記録の更新で3位、橋本も7位と入賞。この日の決勝進出を逃した選手はいたものの、チーム全体は「戦えるモードに入った」と感じました。

2日目もこの流れは続き、少女A1500m足立は県高校記録の6位、今回新種目となった少女B3000m競歩の斎藤7位、少女B、800mの奥田、少年A800mの樋口がともに8位、少女共通走高跳の高山7位、成年女子100mのふるさと選手として参加した鈴木は貫禄の2位、そして最後は少男A三段跳の村上、インターハイに続く連覇。この2日目終了時で選手一人一人が、愛知のため1点でも獲得しようというムードに高まってきました。ミーティングで村上の「16mを目指したが跳べませんでした、申し訳ありません」という言葉に、一同から労いと感謝の大きな拍手が湧き上がりました。

3日目は本県の出場と得点種目が少ない競技日程ではありましたが、少男共通5000m競歩の平野、県高校新記録で2位に始まり、少男A110mHの岩見3位、成年男子棒高跳の田村は8位タイ。この夜のミーティングでは、男子主将の吉岡と女子主将の山崎が、ここまでの少年の活躍を労うと共にこれから始まる成年選手に檄を飛ばす場面がありました。「チーム愛知」のムードは今まで以上に熱くなりました。また、各支部のご協力により県内各所で練習と競技会に参加させていただき調整を繰り返してきた女子リレーも、前川、鈴木、五明、河原崎のオーダーでこの日から始まりました。リレーチームリーダーでもある鈴木は、日本代表での経験をもとに的確なアドバイスとリーダーシップを発揮。時には失敗した選手に厳しい言葉をかけながらも、裏には今の自分があるのは愛知のユニフォーム時代があるからだとの思いがあったようです。

そして迎えた4日目、成年男子3000m障害の加藤は「勤務が夜勤続きで…」と言いながら6位、少女3000mの足立は2種目めも自己新で5位。そして、男女主将のハードル。男子キャプテン吉岡の決勝フィニッシュは大きく前へ転倒して2位を死守。1点の重みをチームに身を持って教えてくれました。続く山崎は6位に入賞すると「愛知のために得点できたことが本当に嬉しい」と心からの言葉と共に大粒の涙がこぼれました。成年男子10000m競歩の杉本は世界選手権経験者であるものの国体は初出場。スタート前にはかなりの緊張とプレッシャーがあったようですが、レースは前半から狙わず中盤から後半勝負に出て4位。成年女子走高跳の日高は3位、走幅跳は七種競技の中田で8位と、それぞれがベテランの強みを見せた結果でした。そして、この日のフィナーレは、少年男子B3000mの三田の優勝。記録は日本人高校1年生

第 60 回岡山国体愛知県選手団競技成績一覧表

男女総合（天皇杯）3 位　103.33 点　　女子総合（皇后杯）　5 位　56 点　　※○数字は順位

種　別	種　目	氏　名	所　属	予　選	準　決	決　勝	得点	備　考
成年男子	ハーフマラソン	渡邉　聰	トヨタ紡織			⑳1.05.34		
〃	400m	明星　光信	三好高教	途中棄権			10	参加得点
〃	110mH	吉岡　康典	さかえクリニック	①14.06		②14.04	7	
〃	3000mSC	加藤　聡	トヨタ自動車			⑥8.49.40	3	
〃	10000mW	杉本　明洋	京都大学院			④42.56.97	5	
〃	棒高跳	田村　雄志	さかえクリニック			⑧5.00	0.33	8 位で同記録が 3 名のため
〃	走幅跳	嶋川福太郎	さかえクリニック	⑪7.24				
〃	やり投	下り藤修大	中京大			⑫66.01		
成年女子	ハーフマラソン	後藤由華子	小島プレス			途中棄権		
〃	100m	鈴木　亜弓	スズキ	①11.79	①11.81	②11.82	7	
〃	100mH	山﨑由加里	さかえクリニック	②13.99		⑥14.13	3	
〃	10000mW	石塚　侑子	順天堂大			⑭50.31.27		
〃	走高跳	日高　里子	トヨタ自動車			③1.75	6	
〃	走幅跳	中田　有紀	さかえクリニック	②6.03		⑧5.93	1	
少年男子Ａ	400m	勝俣　章博	中京大中京高	⑤48.81	⑦48.88			
〃	800m	樋口　諒	岡崎高	④1.54.50		⑧1.54.54	1	
〃	5000m	清水　紀仁	豊川工高	⑮14.54.13				
〃	110mH	岩見　勇志	名古屋高	③14.86	②14.68	③14.67	6	
〃	三段跳	村上　智史	名古屋大谷高	①15.24		①15.50	8	
〃	ハンマー投	橋本　友幸	名古屋高			⑦56.05	2	
〃	やり投	松谷　将成	名古屋大谷高			⑫60.31		
少年男子共通	5000mW	平野　博之	愛工大名電高			②20.56.08	7	県高校新
少年男子Ｂ	200m	屋貝　博文	安城北中	⑤22.82				
〃	3000m	三田　裕介	豊川工高	①8.30.15		①8.13.94	8	高１日本新 県高校新
〃	走幅跳	鈴木　雄貴	岩津中	⑤6.59		⑪6.24		
〃	円盤投	土井　洋	名城大附高			⑭41.09		
少年女子Ａ	100m	河原崎可央里	安城学園高	①12.14	①11.84	③11.85	6	準決は自己新
〃	400m	石田麻奈巳	豊橋西高	⑤58.64				
〃	400mH	石田麻奈巳	豊橋西高	④63.38				
〃	1500m	足立依實子	豊川工高	②4.27.22		⑥4.22.61	3	県高校新
少年女子共通	3000m	足立依實子	豊川工高	③9.21.41		⑤9.16.15	4	自己新
〃	走高跳	高山　歩	至学館高	⑧1.66		⑦1.69	2	
〃	やり投	吉野　菜美	愛知商高			㉕40.80		
少年女子Ｂ	800m	奥田和佳奈	富貴中	③2.15.13		⑧2.17.53	1	
〃	3000mW	斉藤　千花	岡崎商高			⑦15.57.51	2	自己新
〃	走幅跳	賀川　綾子	名古屋西高	①5.71		④5.76	5	自己新
成少年女子共通	4 ×100mR	前川　奈央 鈴木　亜弓 五明　淑恵 河原崎可央里	朝日丘中 スズキ 小島プレス 安城学園高	①45.95	①46.13	③46.08	6	

日本最高記録という素晴らしいおまけつきの圧勝でした。この夜のミーティングでは、「愛知のために…、チームあいちのために…」と選手団の心が一つになった瞬間でもありました。

最終日、5日目は男女のハーフマラソンとリレーの決勝。ハーフマラソンは、選手全員が応援ポイントを決め沿道から懸命に応援しましたが、結果は残念。残るは女子リレー決勝。リレーで上位入賞ができれば男女総合で大阪府を抜き3位に浮上できることを選手に伝え、スタンドの一角では選手が一丸となって応援。結果3位入賞で全競技終了。コーチも選手も達成感が心の底から湧き上がりました。

選手団の決定後、3回にわたる合宿を実施し「選手は720万県民の代表、多くの皆さんの応援を受け、感謝し1点でも多く得点をすることが、家族や学校・所属の皆さんへの最高の恩返しとなる」と話してきました。それを見事に実現してくれたのです。中でも県高校新記録3種目、自己記録を更新した選手が10名を越え、更に、優勝2種目を含め37種目エントリー中22種目で入賞という結果でした。

大会を終え振り返りますと、短距離はここ数年スーパースターがいませんでしたが、今回、鈴木がふるさと選手で加わったことで、学ぶ点も多くジュニア選手には大きな刺激となりました。今後も選手団の核となる選手の育成とその起用が必要です。

さらに、国体の成年種目には国内のトップ選手として活躍している選手が多く、国体開催時期に競技会が重なり、ベストなコンディションで臨むことが難しい選手もいます。今後、選考については県代表として国体に出場したいと強く希望している選手を選考することが、チーム力アップにつながると考えます。

また、事前の合宿についても全員参加を原則としていますが、所属の関係や大会等と重なり全員が一堂に会することができない状況があります。しかし、選手団の合宿は、意識向上とチーム作りには欠かせません。今後も、実施時期や場所について、充分検討し実施すべきと考えています。

最後に少年種目、ジュニア選手強化については、中長距離や障害の110mなどで中学の強化が実りつつあることを特筆したいと思います。今後は講習会や競技会などを通して、中学から高校への連携が更に必要です。また、「走、跳、投」の運動が学校教育の場でできなくなっている中、陸上競技教室に課せられた課題の大きさを痛感します。今後各支部を中心に有望選手の発掘はもとより、選手育成、指導者の養成も兼ねたこの行事が更に充実したものとなるよう、強化委員会としても研究と実践指導を行いたいと考えています。

人の握手はその場の覚醒度を表すと言われますが、今国体の入賞者にはそれを強く感じました。今回出場した選手がこの岡山国体で手にした経験を更なる前進の一助としてくれることを強く期待します。

最後に、国体派遣に際して愛知陸上競技協会の皆様始め、愛知の陸上関係者の皆様に深くお礼申し上げるとともに、同行したスタッフの皆さんに心より感謝を表わしたいと思います。

感動と感激。そして感謝の涙が出る岡山国体でした。選手団の皆さん本当にありがとうございました。

（岡山国体愛知県選手団　陸上競技　総監督　水野　久）

最優秀選手に内藤真人と阪野裕子

―第65回愛知陸上競技選手権大会―

大会は、7月2日（土）・3日（日）・16日（土）・17日（日）の4日間にわたり、瑞穂公園陸上競技場で行なわれた。7月3日（日）の午後少し雨が降ったものの、全体的に好コンディションの中で実施された。最優秀選手は男子が110mHで優勝した内藤真人選手（ミズノ）、女子は100mHと400mHの2冠に輝いた阪野裕子選手（さかえクリニック）がそれぞれ選ばれた。以下選手権者を記載する。

男　　子

種　目	1　位		
100m	石黒　遼人(3)	中京大	10.60
200m	和田　宏太(3)	中京大	21.47
400m	可知　晃徳(4)	名古屋大	48.55
800m	加藤　友樹(2)	中京大	1.52.20
1500m	中村　高洋(4)	名古屋大	3.57.52
110mH	内藤　真人	ミズノ	13.70
400mH	住澤　知幸(3)	中京大	50.66
3000mSC	加藤　聡	トヨタ自動車	9.06.15
5000mW	平野　博之(3)	愛知工大名電高	21.55.08
走　高　跳	赤井　裕明(3)	筑波大	2.10
棒　高　跳	田村　雄志	さかえクリニック	4.90
走　幅　跳	嶋川　福太郎	さかえクリニック	7.57
三　段　跳	山本　雄介	小島プレス	15.92 大会新
砲丸投	山中　敏道(2)	中京大	13.60
円盤投	浅井　幹雄	名古屋学院クラブ	41.28
ハンマー投	吉川　昌利	国際武道大	53.11
やり投	惠濃　一繁(3)	京産大	66.58

女　　子

種　目	1　位		
100m	河原崎可央里(3)	安城学園高	11.93
200m	川﨑　聖子(3)	愛知淑徳高	24.73
400m	金丸　佳世(4)	愛知教育大	56.04

800m	鈴木亜由子(2)	豊橋陸上クラブ	2.10.41 県中学新
1500m	足立依實子(3)	豊川工高	4.30.41
100mH	阪野　裕子	さかえクリニック	13.84
400mH	阪野　裕子	さかえクリニック	59.13 大会新
5000mW	山田絵梨奈(3)	惟信高	24.14.73
走高跳	日高　里子	トヨタ自動車	1.71
棒高跳	平澤　沙知	日体大	3.51 大会新
走幅跳	小川　詩織(4)	名城大	5.64
三段跳	小川　詩織(4)	名城大	12.09
砲丸投	久間みのり(1)	中京女大	13.02
円盤投	山本　泰子	西尾クラブ	39.50
ハンマー投	種村　真利(3)	中京大	49.53
やり投	石田　　桂	城西ＡＣ	44.85

（稲垣　裕）

飯田・村上堂々の全国制覇

―平成 17 年度全国高等学校総合体育大会　陸上競技対校選手権大会―

平成 17 年 8 月 2 日（火）～6 日（土）千葉県総合スポーツセンター

愛知県選手　参加総数　85 名（男子 53 名・女子 32 名）

入賞者成績一覧

男子	800m	8 位	樋口　諒	（岡崎）	1.56.44
	110mH	優勝	飯田　将之	（名古屋）	14.42
	〃	8 位	岩見　勇志	（名古屋）	15.31
	3000mSC	6 位	岡部　寛之	（豊川工）	9 .10.20
	5000mW	2 位	平野　博之	（愛工大名電）	21.44.98
	〃	7 位	山田　洋一	（一宮西）	22.58.06
	4×100mR	8 位	近藤・岩見・飯田・水間	（名古屋）	41.60
	4×400mR	7 位	小原・紺谷・内藤・勝俣	（中京大中京）	3 .19.09
	三段跳	優勝	村上　智史	（名古屋大谷）	15.90（大会新）
女子	800m	7 位	成瀬　直	（至学館）	2 .12.86
	3000m	8 位	足立依實子	（豊川工）	9 .23.69
	3000mW	4 位	伊藤由季子	（至学館）	13.58.06
	4×400mR	4 位	成田・川崎・蜂須賀・坂田	（愛知淑徳）	3 .48.38

村上選手の大ジャンプ

飯田選手の気力のハードル

写真提供：「月刊陸上競技」

（大島　修）

第 40 回全国高等学校定・通信制陸上競技大会

平成 17 年 8 月 11 日（木）～14 日（日）東京：国立競技場

今年は 40 周年で、開会式に記念式典が行われた。ナイターでの入場行進、国立競技場での聖火リレー、電光掲示盤には野口みずき選手からのビデオレターや大会の歴史紹介が映し出され、選手をはじめ関係者も心に残るものとなった。

成績は男女総合 3 位、男子総合 3 位、女子総合 5 位という結果である。上位をねらう都道府県の中で、愛知の参加選手 31 名は少数であるだけに、選手の健闘を称えたい。

男子―400ｍ 4 位中村仁哉、5000ｍ 7 位鈴木雅士、400ｍＨ 5 位船木孝一、2000ｍSC 優勝古井戸桂一、400ｍＲ 4 位・1600ｍＲ 3 位愛知選抜、走幅跳 5 位・三段跳 4 位青山龍治（以上科技高刈谷）、女子―100ｍ 8 位・200ｍ 7 位深谷友美（刈谷東・昼）、400ｍ 2 位・800ｍ 6 位渡部恵里香（科技高刈谷）、100ｍＨ 3 位都築理沙（岡崎工業）、400ｍＲ 6 位愛知選抜、円盤投 5 位板倉亜希（科技高刈谷）。前次憲監督の手腕が発揮された、リレー 3 種目の入賞は、総合成績に大きく貢献した。

（松橋　政人）

鈴木亜由子（豊城）選手堂々の 2 冠に輝く

―第 32 回全日本中学校陸上競技選手権大会の結果―

平成 17 年 8 月 20 日（土）～ 22 日（月）岐阜メモリアルセンター長良川

力走する女子 800ｍの鈴木選手

写真提供：「陸上競技マガジン」

種　目	氏　名	学校名	記　録	順　位
男 200m	屋貝　博文	安城北	22.88(−2.9)	第 6 位
男 400m	中嶋　一成	豊川南部	51"52	第 7 位
女 800m	奥田和佳奈	富　貴	2 '15"34	第 7 位
	鈴木亜由子	豊　城	2 '11"72	第 1 位
女 1500m	鈴木亜由子	豊　城	4 '31"12	第 1 位
女 4×100mR	①渡邉潤奈 ②高澤理実 ③國井　恵 ④小椋敦子	扇　台	50"13	第 6 位

愛知県選手団としては男子 29 名、女子 22 名計 51 名が参加し、鈴木選手の 2 種目優勝など何年かぶりの全国制覇選手の誕生と古豪愛知県の復活がみられ、来年の全国大会での活躍が期待されます。

（秋田　明憲）

栄　章

平成 17 年度愛知陸上競技協会会長表彰と愛知陸上競技協会特別表彰（2004 年日本記録樹立選手）が、7 月 17 日の選手権大会

の合間を利用して表彰式が行なわれた。表彰者は以下の通りです。

平成17年度　愛知陸上競技協会会長表彰

浜島　聖治（名古屋支部）　中尾　洋一（西三河支部）
櫻井　　勘（名古屋支部）　稲垣　敏憲（西三河支部）
坂井田酵三（名古屋支部）　伊藤　義之（東三河支部）
外山　　修（西三河支部）

愛知陸上競技協会特別表彰　2004年日本記録樹立選手

内藤　真人（ミズノ）
　室内60mH　7秒77　3月6日
　　世界室内選手権　（ブタペスト）
綾　　真澄（グローバリー）
　ハンマー投　66m31　5月9日
　　中部実業団対抗　（岐阜・長良川）
室伏　由佳（ミズノ）
　ハンマー投　66m68　6月19日
　　中京大土曜記録会（豊田・中京大梅村）
　　67m77　8月1日
　　スプリントチャレンジカップ（富士北麓）
中田　有紀（さかえクリニック）
　七種競技　5962点　6月4・5日
　　日本選手権　（鳥取・布勢）
中田　有紀（さかえクリニック）
　室内五種競技　4044点　1月31日
　　ドイツ室内混成選手権（ドイツ・ハレ）

（稲垣　裕）

平成17、18年度　愛知陸上競技協会役員

（平成17年11月1日現在）

会　　長　梅村　清弘
副 会 長　國分　一郎
支 部 長　髙田　輝男（尾張）　竹内　信雄（名古屋）
　　鶴田　政之（西三河）牧田　　功（東三河）
顧　　問　翠　　忠明　　竹内　伸也
参　　与　越原　一郎　　高木　　景
　　石黒　銅次　　近藤　卓夫
　　太田　哲郎
理事（支部理事長及び専門委員会委員長）
理 事 長　國分　一郎
副理事長　外山　幸男（競技・情報）青木　　実（審判）
　　稲垣　　裕（総務）（記録）
常務理事　村瀬雄一郎（財務）　水野　　久（選手強化）
　　桑原　義貴（施設・用器具）脇田　千鶴（女性）
　　西垣　完彦（年誌資料・広報）小椋　征弘（尾張）
　　坂井田酵三（名古屋）　柴田　和秀（西三河）
　　夏目　輝久（東三河）

理　　事　篠原　喜秋　矢野　通則　中尾　隆行
　　恒川　　勇　榊原　　茂　勝見　雅宏
　　水野　隆夫　伊藤　明久　岡田　武彦
　　原川　　豪　野村弥寿男　外山　　修
　　岩瀬　金道　藤原　照明　谷口　直士
　　北村　　肇　勝亦　鉱一　渡辺　尚巳
　　樋高　勇二　安藤　好郎　大島　　修
　　秋田　明憲　千田　俊樹
監　　事　藤井　秀司　若松　良一　大見　　脩
　　鈴木　政男
秘　　書　宮本　　智

愛知陸協70周年記念誌

愛知陸協では、創立70周年（平成16年）記念行事の一環として、平成17年10月「愛知陸協70周年記念誌―この10年の歩み―」〈A4版。344頁〉（写真）を刊行した。

本誌は、①創立70周年記念。②愛知陸上競技協会“この10年の歩み”。③四支部と関係団体の歩み。④栄章。⑤国民体育大会、全国身体障害者スポーツ大会。⑥資料集。⑦組織。⑧審判員名簿。⑨加盟団体。及び付録・年表、で構成されている。

特に、②では「記念座談会」として、故高橋公一前会長を偲んで、協会運営と活性化、選手強化について、を収録した。

（西垣　完彦）

編　集　後　記

記念すべき創刊号です。愛知の陸上競技の活性化の一翼をになうべく広報委員会が発足して、本格的な一歩を踏み出すことができました。文章をお寄せ下さった方々には大変感謝しております。

愛知の陸上を競技と運営の双方の面から広く伝えるという基本方針のもと、今後は年4回、いわゆる季刊の形で発刊してまいります。広報誌が愛知の陸上界の活性化に少しでも寄与できれば幸いです。選手の皆さんには広報誌を飾る活躍を期待し、役員の皆様には、ご執筆等のご協力をお願いします。

愛知陸協章の由来

フクロウ科「コノハズク」を愛知県の「愛」の字を白地に藍色で図案化。制定昭和11年（1936年）

コノハズク　フクロ科の仲間、目が黄色、体が灰褐色の鳥。森林に棲み、初夏の夜「ブッ・ポー・ソー」と3音でよく鳴く。昭和10年（1935年）、現在のNHKが愛知・鳳来寺山から夜間「ブッ・ポー」と鳴く声を放送した。これは仏法僧（ブッポウソウ）と呼ばれ正体不明の鳥であったが、ブッポウソウ（ブッポウソウ科）は昼の声・夜の声が違うかと議論された。しかし、飼育家の「コノハズク」が「ブッポー」と鳴いたことで「コノハズク」であることが解明されたという、鳥類史の上で稀なエピソードを持つ鳥だ。そこで、コノハズクとブッポウソウの混同を区別するためにコノハズクを「声の仏法僧」、ブッポウソウを「姿の仏法僧」として親しまれている。なお、コノハズクは「愛知県の鳥」として指定されている。

編　集　委　員

占部　輝之　大西　敏功　榊原　　茂
田中　輝彦　外山みな子　西垣　完彦
野口　一昭　平川　貴之